

個人投資家が実践で使える

# 財務諸表

## 「解説術」

企業業績は株価を決定するファンダメンタルズ（基礎的条件）とも言える重要指標だが、それを示す財務諸表（決算書）を個人投資家が正確に読み解くのは簡単ではない。そこで企業会計のプロに財務諸表の基礎に加えて、実践で使える「解説術」を解説してもらう。



### 基礎編

「攻め」の投資時にはP/Lを、  
「守り」にはB/Sを注視せよ！



うえまつ りょう  
植松 亮  
公認会計士／税理士

財務諸表は、企業が自社の業績を

一定のルールに基づいて開示するもので、①その決算期にどれだけ稼いだかを示す損益計算書（P/L）、

②決算日時点の財産（資産・負債）の状況を示す貸借対照表（バラン

スシート＝B/S）、③現金や預金の流れを示すキャッシュフロー計算

書（C/S、またはC/F）——の3つの決算書（財務3表）がある。

これら財務諸表を利用して企業業績を読み解くには、まず最低でも過去2～3期分の業績を時系列で比較

し、業績の「流れ」を把握すること

が肝心だ。なぜなら、株価に対してより大きな影響を及ぼすのは、過去の業績ではなく、将来の業績見込みだからだ。時系列で業績の流れを把握しておくことで、将来見込みについての評価が大きく変わってくる。

例えば、ある企業が直近決算で過去最高益を計上したとしても、それが次期以降も継続するものか、それとも、それを業績のピークとみるのかで、大きく違ってくる。

特に2009年度第1四半期（4

～6月）は多くの企業で在庫調整が進み、収益力も改善しつつあると報じられている。企業業績の潮目が変わった可能性もある。以下、財務3表を読むためのポイントを解説するが、実践する際には、業績の「流れ」を踏まえたうえで参考にしてほしい。

#### ① 損益計算書（P/L）

売上高営業利益率と

当期純利益に注目せよ！

財務3表のうち、損益計算書（以

下、P/L）をみれば、決算期間内にその企業が「どの程度の利益をどんな方法で稼いだか」を読み取ることができる。一般企業の場合、一番上に売上高が表示されており、下に向かってさまざまなコストを差し引いていくことで、各段階でそれぞれ性質の異なる5つの利益が算出される（42頁図1）。

ただし、これらすべての利益に注目する必要がある。投資家にとって重要なのは、営業利益と当期純利益の2つである。営業利益は、売上高から売上原価を差し引いた売上総利益（粗利）から、さらに販売費及び一般管理費（販管費）といった管理経費を引いたものだ。その企業の純粋な事業活動（本業）で稼いだ利益と言える。つまり、この利益が大きい